

## 投 稿 規 定

1. 本誌の著作権は『明日の臨床』編集委員会に帰属する。
2. 原稿に係る研究について、企業等との共同研究、委託研究の場合はその旨申告すること。
3. 本誌は臨床医学に関連する学術論文(原著、総説、診療のコツ、診療のヒント、手術手技、症例報告など)およびその他の記事(学会印象記、内外文献紹介、編集者への手紙など)を掲載する。なお、症例報告にあたっては患者から文書により同意を得、その旨表示すること。
4. 本誌への投稿は共著者を含め本会会員に限る。ただし編集委員会が依頼する原稿に関してはその限りではない。
5. 原稿は他誌に発表されていないものに限る。
6. 原稿は400字詰め横書き原稿用紙で35枚以内(図、表、写真とも)とする。ワープロ、パソコン使用の場合は、1行22字×20行を1頁とすることが望ましい。なおこの枚数制限は編集委員会が認めた場合はこの限りではない。原稿は電子媒体による投稿も可能である。詳細については編集委員会に相談されたい。
7. 文献は出典を明確にし、図、表、写真を他の文献から引用する場合は、その著者ならびに出版者の許諾を得たものとする。
8. 原稿の採否、掲載の形態、掲載順序は編集委員会において決定する。採否の審査には査読制を採用する。規定に沿わない原稿の返却、あるいは編集委員会の責任において字句の訂正及び修正ないしは内容の修正があることがある。
9. 受理した原稿は、格別の申し出がない限り原則として返却しない。
10. 受理した論文には受領通知を出し、採択論文について、編集委員会到着日をもって受付日とする。
11. 原稿は現代かなづかいおよび常用漢字を使用したわかりやすい口語体とする(である調で統一すること)。
12. 原稿にはダブルスペース200語以内(表題、著者名、所属施設名を含む)の英文抄録をつける。英文抄録および原稿、文献中の原語はすべてタイプライターあるいはワープロを使用する。
13. 原稿の表題には、著者名、肩書、所属施設名とその住所を併記する。さらに、日本語あるいは英語のキーワードを5語以内と、25字以内の短縮表題(ランニングヘッド)も付記する。
14. 原稿は、以下の体裁を整えることが望ましい。「はじめに」(Introduction)、「方法」(Meth-

ods)、「結果」(Result)、「考察」(Discussion)、「まとめ」(Summary)。

15. 文献は、本文に引用された順に番号を付し、末尾に一括して示す。

### 〈雑誌のとき〉

著者:表題、誌名、巻:ページ~ページ、年。

例) 文人正敏,石井和博,百束比古:瘢痕皮弁—特にMusculocutaneous systemを含む瘢痕皮弁について—形成外科,24:470-475,1981.

例) Bostwick, L. III., Nahai, F., and Waliace, J. G. : Sixty Latissimus dorsi-farps. Plast. Reconstr. Surg., 63 : 31 - 41, 1979.

### 〈単行本のとき〉

著者:(編集者名3名以内):表題、引用ページ、発行所、発行地、発行年。

例) 木村 茂(葛西森夫):臨床小児科全書, 61-76, 金原出版, 東京, 1974.

例) Digma, R.O. (Converse. J. M.) : Reconstructive Plastic Surgery. 397 - 402, W. B. Saunders Company, Philadelphia and London, 1964.

邦文文献の略号は日本医学雑誌略名表により、外国文献の場合はIndex Medicusに従う。

16. 図、表、写真(モノクローム)はそのまま製版できる鮮明なものに限る。原稿には挿入箇所を朱で明記する。図、表、写真は写真サイズのキャビネ判相当の大きさとし、1枚挿入ごとに本文から400字減ずるものとする。なお、カラー掲載を希望する場合、原則としてその実費は著者負担とする。

17. 数字はアラビア数字とし、度量衡の単位はm、cm、mm、ml、l、kg、g、mgなどを用いる。

18. 別刷は30部までは無料とし、それ以上は著者の実費負担とする。

19. 著者の校正は1回とする。

20. 本投稿規定は編集委員会の議を経て改正することができる。

21. 投稿原稿は下記宛に送付する。

(1)郵送の場合は下記宛に書留便で送付する。

〒466-8655 名古屋市昭和区妙見町19-2

愛知県保険医協会

『明日の臨床』編集委員会

(2)電子メールの場合は下記アドレスに送付する。

asunorinsyo@doc-net.or.jp